

# 「KYO-1グランプリVol.4」スピーカー募集

次回開催日：2026年8月8日

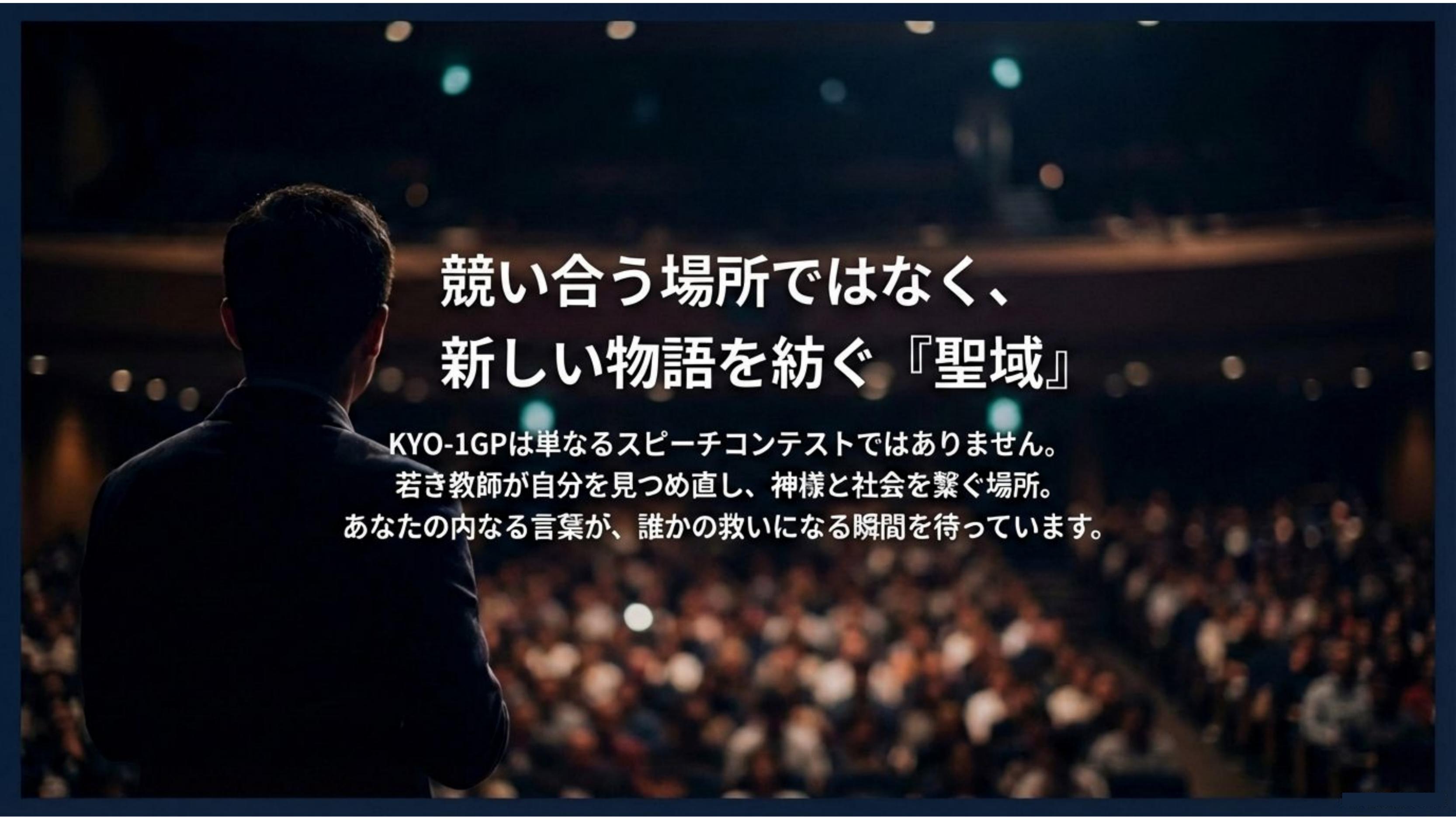
あなたの「物語」が、誰かの明日を照らす光になる。





# 混迷の時代に必要なのは、 教義ではなく「処方箋」です。

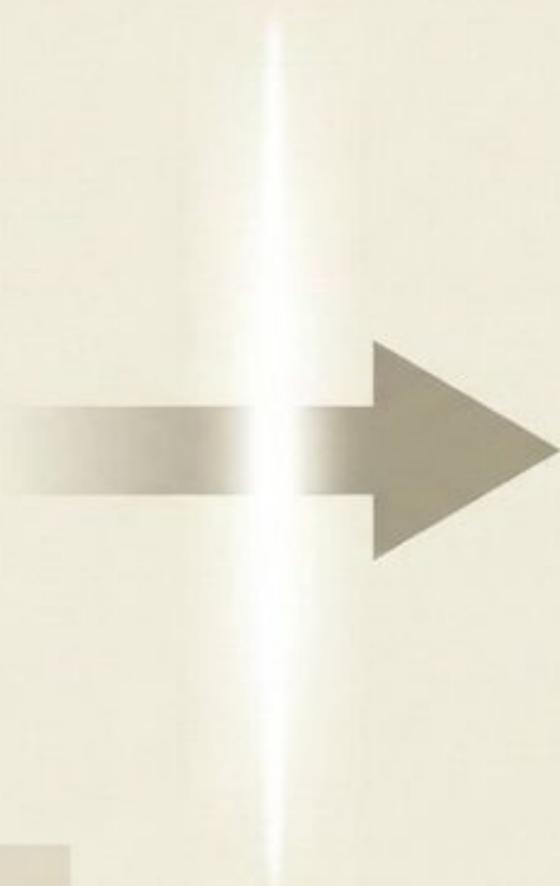
現代社会を覆う孤独と不安。形式的な教えや組織への帰属は、その効力を失いつつあります。求められているのは机上の空論ではなく、葛藤の末に掴んだ「ウェルビーイングの知恵」と「自己変容の物語」。実体験に基づく「生きた言葉」だけが、他者の魂に響きます。



# 競い合う場所ではなく、 新しい物語を紡ぐ『聖域』

KYO-1GPは単なるスピーチコンテストではありません。  
若き教師が自分を見つめ直し、神様と社会を繋ぐ場所。  
あなたの内なる言葉が、誰かの救いになる瞬間を待っています。

# 7分間。情報を削ぎ落とすことで、革新を際立たせる。



放送センター所長・平阪真太郎氏が説くように、  
制約は「人生で最も伝えたいこと」を  
抽出する装置です。

高密度に研ぎ澄まされた言葉は、  
多忙な現代人の心に深く、鋭く  
突き刺さります。

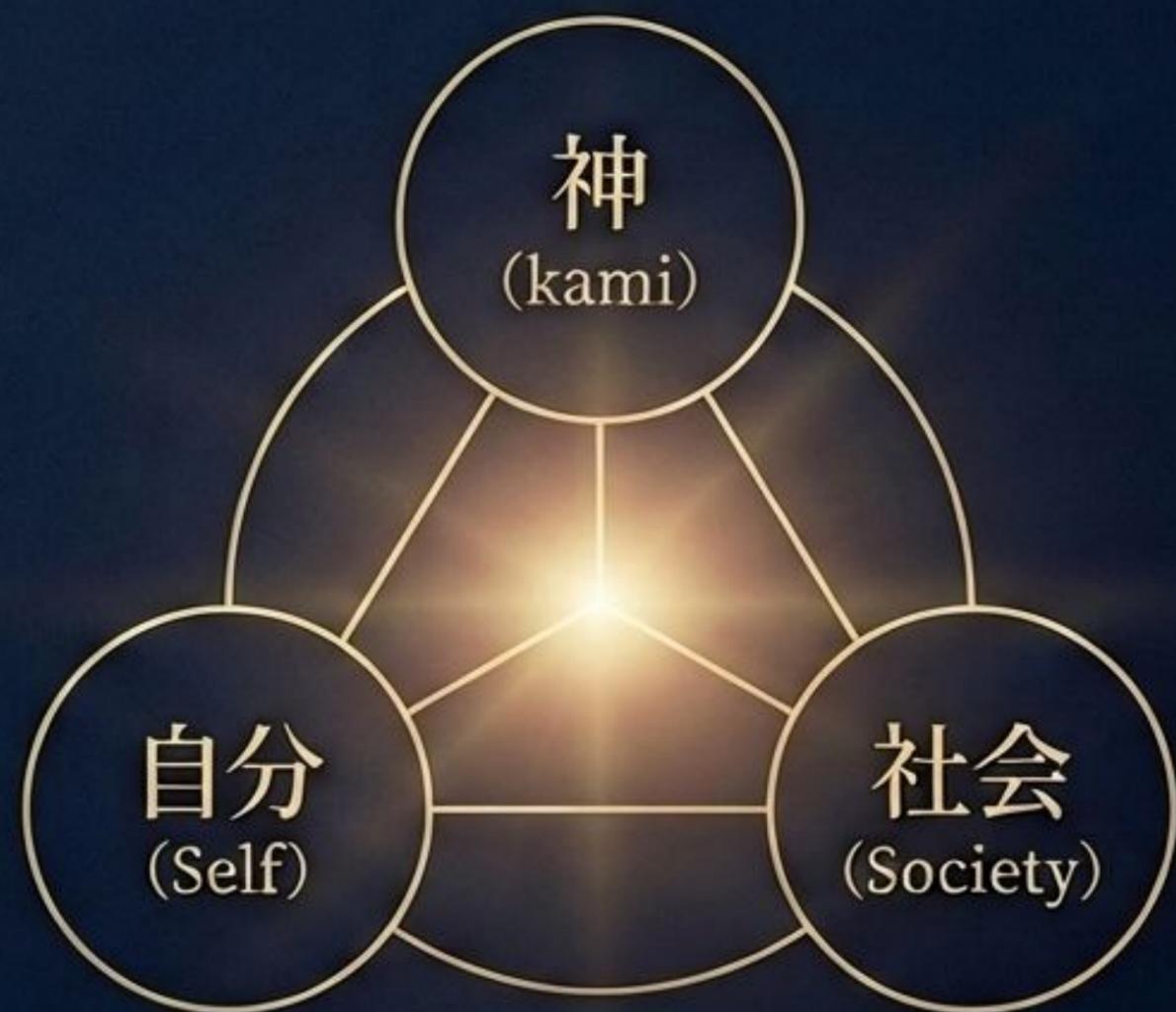
# 「教えない」という優しさ。

「信じなさい」と強要しない。

杉田明信先生や成田明信先生が体現する  
「神様に遊ばせていただく」感覚。

聴き手にマインドフルネスな余白を提供し、  
弱さを分かち合うことこそ、  
最も誠実なコミュニケーションです。

# 究極のメンターシップ、「お取次 (Otoritsugi)」の力。



Vol.1 グランプリ・金光孝悦先生の体験。

自分一人で願うのではなく、神様との間に立つことで祈りはパワーアップします。  
孤立した現代における絶対的な安心感。自己の限界を認めることが、新しい強さの始まりです。

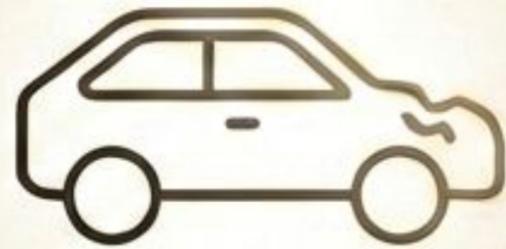
# 準備プロセスそのものが、 信心の再発見となる。

「お話を考えること自体が最高の勉強になった」  
(山本道登先生)。

ステージに立つことだけが目的ではありません。  
話を作る過程で、自分の人生と信心が劇的に再定義  
されます。



# 「難儀」を「おかげ」へ。視点を変える創造性。



白神吉江先生：  
事故のショック  
→「下がるな」という神様の  
前向きなメッセージへ。

山田泰弘先生：被災体験 →  
仲間との「ご縁」と「笑  
顔」の発見。

橋口美紀先生：自己否定 →  
「3つの幸せ探し」で過  
去の自分さえも励ます。

# 心が熱くなる衝動は、 神様からのギフト。

神田道雄先生が提唱するように、  
「やってみたい」という挑戦心自体が  
神様の働きです。  
近藤加奈美先生の「18点の奇跡」。  
次男のテスト結果から、個人の願いを  
超えた家族の喜びを感知しました。

小さな出来事の中に、普遍的な物語が  
眠っています。



# Modern Spiritual Editorial

45歳以下へ。  
成熟した人生経験が  
物語を深くする。

出場地域は全国へ拡大中。  
そして年齢制限を45歳以下へ緩和。

若さの勢いだけでなく、人生の酸いも甘  
いも知る世代だからこそ語れる、  
深みのある物語を求めています。



社会との対話で磨かれる、一生モノの発信力。

木村共宏 様

(浄土真宗本願寺派 築地本願寺副長)

かんべむさし 様

(作家)

日下部一宗 様

(天理教教会 会長)

門川大作 様

(元京都市長)

宗派や業界を超えた「人間賛歌」としての普遍性を磨く、多角的なフィードバックが得られます。



**完成していなくてもいい。  
不完全なままでいい。**

上手く話そうとする必要はありません。  
失敗や挫折を抱えているからこそ、  
言葉は重みを持ちます。

飾らない素直な言葉、真摯な姿勢だけを  
持ってきてください。

# 募集要項概要

対象	45歳以下の金光教教師（青年教師）
内容	自身の信仰体験に基づく7分間（目安）の教話
テーマ	信仰の価値、教えの魅力、自己の変容、日常の気づき
形式	会場登壇収録後にオンライン配信(LIVEも検討中)。 スペシャリストによるフィードバックあり。
Mission	聴き手に勇気、元気、明日を生きる力を届けること



あなたの一步が、  
新しい「ご縁」を結び直す。

「人はご縁（ご支援）の中に生かされている」  
（実行委員長・丹羽晃氏）。

エントリーは単なる応募ではなく、神様と、  
あなたの言葉を待つ誰かと繋がる儀式です。